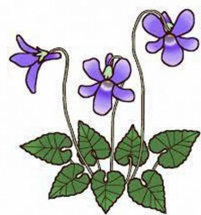


は、ホッとほっと！



令和3年3月
川越市教育委員会地域教育支援課

サポート事業17年目へ コロナ禍から with コロナへの道

子どもサポートに関わる皆様へ

子どもサポート本部長 遠藤 克弥

子どもサポートの事業は、今年で16年になります。最初は埼玉県教育委員会の提案で始まりましたが、いまだにサポート事業として活動をしているのは川越市だけです。私は、子どもたちの居場所づくり、地域で子どもの教育の支援をすることを目的とし、この事業を継続してきた川越市民に誇りを感じ続けてきました。ただ、今回のコロナの感染拡大によって、現代社会がまさに予測不能な社会であることを実感しました。コロナ禍で、サポート事業の継続が問われたときに、やめるのではなく、子どもたちそして市民自身を守るための強いネットワークを築くことの大切さも感じましたし、新たな社会に「生きる力」を子どもたちに育てるための支援をしていく必要を感じました。コロナ禍において私たちに与えられたのは、サポート事業の継続のための新たな在り方と運営の仕方を皆で模索し、実践するという課題だと思えます

中央北地区

中央北地区は、初雁中、川越小、月越小、今成小の校区で、「まが玉作り」や「寺子屋」「料理教室」などの開催を中心に活動しています。

子どもたちのため、学校のため、地域のためにチームとして何ができるのか考えて行動していきます。



夏休みの寺子屋教室で、読書感想文を書いています。高校生も見守ってくれています。

木工コーナーです。広いブルーシートの上で木を組み合わせて作品作りをしています。



芳野地区

小中学校が2校の小さい地域ですが、「地域の子どもは地域で育てる」という思いのもと活動しています。

今年度は、9～10月に小学校の「ミシン学習支援」しか、活動ができませんでした。10年以上活動してきた内容を「三密の回避」「消毒や空気の入れ替え」を考えて、再構築していかなければならなくなりました。

大変な事態になりましたが、子どもたちの笑顔を少しでも増やすため、これからの活動を考えていきます。



夏休み中の寺子屋教室

中央地区

「生きる力」を育む

1 中央地区の特色

子どもたちの社会環境の変化と「地域社会の総がかり」～アクティブ・ラーニングの視点～

▽遊ぶから学ぶ自立心・想像力・判断力「青空児遊館」

▽中学生の我がまちを再発見「カメラが覗く景観百選」

▽観光都市小江戸 深堀事業「民話の里めぐり歴史探歩」

▽広報誌「Eye 愛」の発行等



青空自由館（中央小学校校庭）



民話の里めぐり（仙波小学校区）

2 来年度の目標

コミュニティスクール（学校と地域の連携）

「いま子どもたちは、社会に何を求めているのか」を

グローバル ミクロ 時の流れ

鷹の目・虫の目・魚の目を以て子どもたちと向き合う。

中央南地区

当地区には、商業・住宅・農業が混在している地域の中に小学校3校、中学校2校が位置しており、5校で1つの行事を行うことが難しい状況です。

このため、共同で行うことができる取組として、学校教育活動や世代間交流活動の支援に特化して活動しています。

具体的には、家庭科の裁縫や調理実習の補助、昔遊びや風づくりの補助などをボランティアや自治会の皆様のご協力を賜りながら進めています。今年度はコロナ禍でこれらの活動が全くできず、とても残念です。

また、本委員会は「子どもは地域が育てる」を活動理念に掲げ、子どもと大人が触れ合うことを中心に活動してきましたが、最近、子どもを取り巻く犯罪が増加傾向にあるため、「子どもは地域が守る」を新たに理念に加えました。

多くの地域の方々にボランティア活動にご参加をいただき、子どもたちを見守る目を増やし、お互いの顔と顔が見える関係づくりを進めながら安全に繋げようと考えております。是非、ボランティア活動にご参加いただきますようお願い申し上げます。

古谷地区

古谷地区では、例年の活動として夏休み子ども自習室や部活動体験イベントで小中学生の交流の機会を作ったり、地区内の3校の児童生徒が参加する色々な行事のお手伝いを行ったりしています。

◎サポート委員長から一言

今年度は新型コロナウイルスの影響でほぼ全てのイベントが中止となり、思うように活動できませんでした。今後の活動につきましても現時点ではどうなるかわからない部分もありますが、来年度はワクチンの実用化も進み今年度よりは活動できるようになるのではないかと希望を持っております。

引き続き、子どもサポート活動への皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



部活動体験
（吹奏楽部）

南古谷地区

【みどりと音楽あふれる笑顔の南古谷】

南古谷地区子どもサポート委員会の事業を紹介します。

「地域の特色を生かした事業部会」

◎農業体験（田植え） 5月

◎親子でホタル鑑賞会 6月

◎南古谷かかしまつり 7月

◎南古谷グランドオーケストラ定期演奏会 7月

◎子ども文化祭 9月

◎子どもサミット 7月・11月

◎農業体験（稲刈り・脱穀） 10月

◎収穫祭 11月

「支援・広報部会」

◎広報誌＜ときめき情報局＞年3回発行

残念ながら、本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、全ての事業が中止となりました。

令和3年度、子どもたちやサポート委員の健康を最優先に感染防止対策の徹底を図りながら、コロナ禍の中での事業の選択、事業内容の見直し等を行います。今後は家庭・学校・地域が連携・協力し、地域の活動を通じて、子どもたちを見守り続けていきたいと考えています。

子どもたちの笑顔と笑い声を夢見て

【地域の子どもは地域で育てる】

高 階 地 区

委員長の加藤和徳でございます。関係者の皆様には、日ごろより高階地区地域子どもサポート委員会の活動につきまして、ご理解、ご協力を賜りお礼申し上げます。

高階地区には小学校5校及び中学校4校があり、多数の児童、生徒が在籍しております。このような状況ではありますが、当委員会としては、可能な限り多数の方が参加できる取り組みを行っております。当委員会の主な活動といたしましては、小学生を対象にしたドッジボール大会や中学校及び地区の高等学校の吹奏楽部によるコンサート、さらに、川越フィルハーモニー管弦楽団との共催によるコンサートを実施しております。これまでこれらの事業を通じ、子どもたちと地域の皆さんとの交流を深めてまいりましたが、今年度はコロナ禍の中、いずれの事業もやむを得ず中止することといたしました。

来年度は、安全・安心を確保しつつ、学校間の交流や地域との連携が図れるよう、各種事業を実施していきたいと考えております。

福 原 地 区

自然豊かな地域の特色を活かし、青少年を育てる福原地区会議と一体となって、常に子どもたちのことを思い、様々な事業を展開しています。主な事業は、「あいさつ・声かけ運動」、「夏休み勉強会」、「こどもまつり（芋ほり・グランドゴルフ・芋煮ほか）」、「山車曳き体験」です。

★ ★ 委員長から一言 ★ ★

今年は新型コロナウイルスの混乱により、ほとんどの行事が中止になり、大変な状況でした。

そのような中、開催できた親子芋ほり体験では、子どもたちの多くの笑顔が見られ、無事開催できて本当に良かったと思いました。

今後も、学校と子どもを私たち地域がより良くサポートしていけるよう、活動してまいります。



霞 ヶ 関 北 地 区



霞ヶ関東中の校庭除草ボランティア…生徒と保護者、教職員、子サポ委員が合同で体育祭に向けてコロナ、暑さ対策をして行った。



霞ヶ関東小の昔のくらし体験…着物を着たり、わら縄作り、道具に触れる学習をした。

霞ヶ関北小のキャベツの苗植え…春に観察する青虫を育てるため前年秋にキャベツを植えた。

【委員長から一言】

体験授業に多くの学校ボランティアが積極的に参加。感謝、感謝です。



大 東 地 区

大東地区は、川越市の西部に位置し北に入間川が流れ、緑豊かな田園地帯が広がる。本地区内には約 35,000 人が居住している。

本年度の活動方針は次の3点としている。

- (1) 子どもたちの豊かな人間性や社会性など「生きる力」を育むため、学校・家庭・地域及び社会教育施設と連携・協力する。
- (2) 地域ぐるみで子どもたちを育てるため、人と人のネットワークを構築する。
- (3) 学校応援団活動及び地域子ども応援団活動の充実を図る。

8月に全体会を開催したが、活動要請も無く、サポート委員会の存在を問われる一年となった。

令和3年度、サポート委員会の使命や役割を再確認しこれまで積み重ねた活動を充実させる。

新たに、大東地区地域会議では、子どもたちに、学び・体験・交流重視の「ふれあい大東っこ塾」が計画されている。サポート委員会でも地域の教育力を生かして協力していきたい。

霞 ヶ 関 地 区

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、本地区の子どもサポート事業も大きな影響をうけております。今後ともこのいわゆる「ウィズコロナの時代」に実施される学校支援事業等において、マスクの着用・手指消毒の徹底・対人距離の確保など基本的な感染症対策の措置を講じながら、この時代を乗り越えていきたいと考えております。

さらには、来るべき新しい時代である「アフターコロナの時代」に充実した活動が行えるよう邁進していきたいと考えておりますので、地域の皆様方からの一層のご支援・ご協力を賜りたいと思っております。



本年度実施された「虫取り」（霞南小）と持久走大会（霞西小）

名 細 地 区

名細地区子どもサポート委員会の活動の特色は、地域の施設や大学などと連携し、参加児童募集型の事業を企画、運営していることです。例えば、障害者施設との連携による『けやきの郷農業体験<<さつま芋植付け～草取り～収穫祭>>』（令和元年度の台風19号の影響を受け事業中断）、東洋大学と連携した『子ども自然教室<<こもれびの森たんけん隊in東洋大学>>』などです。また、当委員会の委員として活躍中の埼玉医科大学病院産婦人科地域医学医療センター医師による『思春期の性教育の大切さ』をテーマにした講演会を、地元小中学校の児童・生徒及び保護者を対象に継続開催しています。

今年度はコロナ禍の影響で計画事業のほとんどが中止という残念な結果となってしまいましたが、今後も子どもたちに多様な体験の場を提供し、健やかな成長の一助となるような活動を展開していきたいと考えています。



☞ 名細地区子どもサポート委員会のロゴ

～子どもたちの成長への期待と大空に高く伸びていくよう願いを込めた『竹』～

川 鶴 地 区

1 地区サポート委員会の特色や特徴

健全で充実した子どもたちの生活を支援する為、家庭、地域、学校、公民館が密接に協力し一体となって、子どもたちの体験学習の場を提供する組織。

2 来年度の活動について

コロナが落ち着いて正常な活動が出来る事が前提ですが、例年通り防災キャンプと子サポ祭りを行う予定です。

また、今年度できなかった子どもの遊び場（青少年を育てる川鶴地区会議との共催）も行いたいです。

3 サポート委員長から一言

コロナが落ち着くまでは思うような活動ができないと思っています。活動ができるようになってからは家庭、地域、学校、公民館と一体で子どもたちを楽しませたいです！

山 田 地 区

山田地区子どもサポート委員会では、地域の特性を生かした体験(米作り等)を通して、子どもたちが山田地区に誇りを持てるような活動を行うことを目標にしています。

今年度は活動が思うようにできていませんが、子どもたちの安心安全のため、学校再開後はこれまでも行っている登下校の見守り活動を行いました。また、授業でも体験的な活動ができていない中、伝統文化に触れ、少しでも子どもたちを元気づけられればという願いを込めて、「藍染めのランチョンマット」を製作しました。

今後も地域の方々に幅広く呼びかけて人材の充実を図り、登下校の見守りをはじめ、子どもたちに寄り添った活動をしていきたいと思います。



山田の子どもたちが健やかに育ちますように！！

